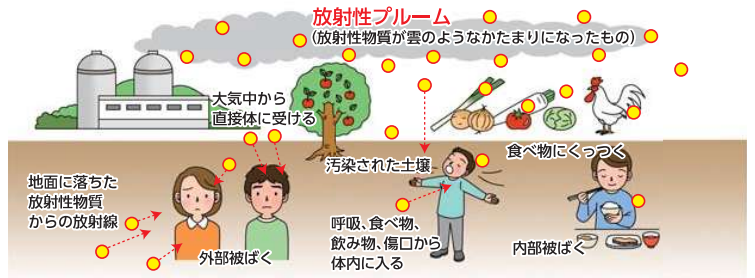


原子力災害対策

大分市で考えられる原子力災害とは

放射性物質が外に漏れ出すと、雲のようなかたまり（ブルーム）となって風下に広がります。原子力発電所からある程度の距離がある大分市では、一過性の放射性ブルームに対する対策が特に重要となります。放射性ブルームは、通過する間に大気中の放射線量を上昇させる特徴を持つため、通過中に、外部からの放射線を遮断する対策（外部被ばく対策）とブルームを吸い込まない対策（内部被ばく対策）が重要です。



複合災害（地震災害と原子力災害が同時に）が発生した場合は

複合災害時では、まず津波から迅速に避難して、生命の安全を確保した後、正確な情報に基づいて、落ち着いて屋内退避などの適切な行動をとることが重要です。

①津波からの避難



地震発生後、津波のおそれのある場合は、津波浸水想定区域外の高台や広場に避難してください。

②災害情報の確認



避難後、広報車、テレビやラジオ、防災メール、ホームページで伝えられる情報に注意してください。

③屋内退避の準備



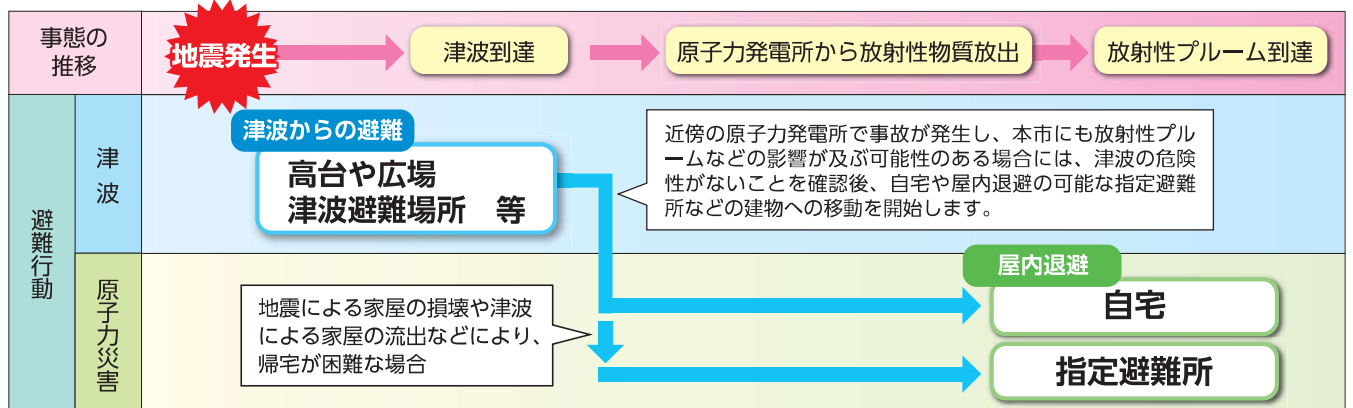
津波の危険性がないことを確認後、自宅や屋内退避の可能な指定避難所などの建物への移動を開始します。

④屋内退避の実施

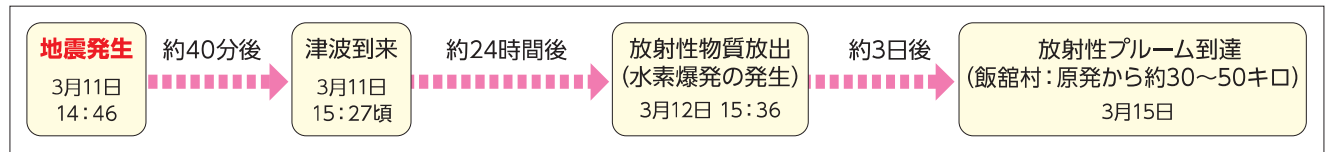


県や市から屋内退避の注意喚起や指示があった場合は、自宅や指定避難所などにおいて、屋内退避を行ってください。

津波と原子力災害における事態の推移に沿った避難行動



【参考：東北地方太平洋沖地震に伴う福島第一原発事故（平成 23 年 3 月）の例】



※ブルーム通過後、屋内退避の必要がなくなったら、県及び市から屋内退避解除の指示があります。情報に注意してください。
※ブルームが通過した後も空間放射線量率が下がらないなどにより、追加的防護措置（一時移転等）が必要になった場合は県及び市から別途指示がありますので、情報に注意してください。